

■令和6年度 第4回こどもの居場所づくり検討部会議事録(概要)

日時:令和7年1月30日(木) 10時から11時30分

場所:蒲燃第3ビル 8階 802 会議室

出席委員:大竹委員、染谷委員、中原委員、大松委員、政木委員、今井委員、酒井委員、森岡委員
8名

<意見交換内容>

委員	意見
大竹 部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館構想を理解するプロセスはこどもの学びにもつながる。 ・福祉と教育、双方の観点からこどもの意見を取り入れる試みは重要。 <p>さらに、意見のフィードバックをすることで意見反映されたということこどもの成功体験につながる。こどもが納得できたということが大切である。それが無ければ、こどもは声をあげる事を諦めてしまうだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が居場所を定めるのではなく、こどもがそこを居場所と思うかが重要。こどもに関わるあらゆる場所が居場所になりうることを理解する必要がある。 ・不登校がひきこもりにならないよう、社会とのつながりを提供していくべき。 <p>通信制高校・大学に通う生徒が増えるなかで、オンラインではなく、地域の中での直接的な人とのつながりを持つ事は、その後の人生においても重要な経験になるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館ガイドラインにソーシャルワークという言葉が入り、児童館にもソーシャルワークが求められている。社会福祉協議会等の資源を活用し、ネットワークにつなげることもソーシャルワーク活動の一つ。児童館の職員にソーシャルワークも求められる。 ・行政が提供する支援について、利用者がネットで検索をしたものの、書いてある内容がわからず、相談につながらない事例があった。難しい言葉をかみ砕いてわかりやすい内容にする必要がある。
染谷 副部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、民生委員として児童館のワークタイムに参加した際、気軽にこどもたちが作り方を聞いてくるなど、充実した時間を過ごさせていただいた。本当に、こどもの発想の豊かさ、創造力には感心する。以前はこどもの出し物の発表会などにも参加したが、現在は発表するこどもがいないため、ずっと開催がない。習いごとに通うなど、児童館の利用が減っているためと聞く。児童館はもっと多様化していく必要があるのではないかと強く感じている。
中原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館構想は、25 ページの図のようなわかりやすいイメージで伝える「こども版」が必要でないか。「意見の尊重」等の難しい言葉についても、こどもにわかりやすく伝えるべきである。 ・大田区に不登校のこどもは1280人程度おり、1280通りの理由があることから、学校や家庭以外にも多様な場を用意すべきである。個別の事情があるなかで、多様な居場所、学びを用意する責任があり、そこに社会や地域とのつながりがうまれる。居場所の創出によって、こどもの意見が上がってくる。児童館はそのような場の一つと捉える。

委員	意見
中原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・策定中の大田区基本計画のなかで、共通の課題として挙げられているのが、少子化対策、つながりの希薄化、担い手づくりである。児童館構想はこれらの課題に対応するものであり、それを念頭に体制を作るべき。居場所を児童館に限らず、引き続きこどもの居場所づくりを検討する場があってもよいだろう。 ・社会福祉協議会には、特技を持つ方を活用する、特技ボランティアの仕組みがあり、人気がある。児童館だけで活動を完結させず、様々なものと連携し、魅力を増せば、こどもは来館すると思う。 ・社会福祉協議会で実施している「こども民生委員」では、街頭募金等の活動があり、ポジティブな感想が多い。多様な活動のメニューがあってもよいだろう。 ・25 ページのイメージ図について、「権利擁護」「連携・協働」というフレーズも簡単にできるとよいのではないか。 ・基本目標は段階のイメージで、基本目標1が最も重要という理解でよいか。
大松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいを持つ方などは、ネット空間の方がアクセスしやすく、居心地がよいという意見もあるだろう。 ・先日、児童館のイベントに参加した際、近隣の保育園、学童保育施設等、団体の参加はあったが、一般利用のこどもを見かけなかった。毎月、学校や保育園ではお知らせを配布しているが、中々来てもらえない。HP もわざわざ見ない。町会や一般の方等、もっと地域とつながり、来てもらえる工夫があるとよいだろう。たとえば、防災の配信メールのように、こどもの情報についてもプッシュの通知ができるとういのではないか。
政木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントで多様な意見が寄せられたことは、とても良いことだと思う。 ・権利擁護の観点から、おとなが良いと思っていることが、こどもたちにとって良いのか、当事者であるこどもの意見をしっかり聴く必要がある。こどもに伝え、こどもがどう感じるか等、こどもの意見を施策に反映することが重要になるだろう。
今井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの意見聴取は教育の計画(おおた教育ビジョン)でも取り入れた。こどもに計画を分かりやすく伝える上で、PDCA サイクルのなかにこどもの意見を組み込む仕組みを検討している。こどもや区民に計画や構想を知ってもらうこと、さらに意見をもらってそれを推進していくことが大事だろう。
酒井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館構想は、計画ではなく道標となる。初期だけではなく、取り組みを長く続けるために、こどもの意見を聴取する仕組みづくりが必要だろう。 ・構想で使われている言葉を分かりやすく簡単にするのは難しい。文章だけではなく、視覚的な理解が求められているかもしれない。今後はショート動画などの工夫も考えられるのではないか。
森岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントで関心の高い区民の方2名から意見をいただいたが、関心の高い方であっても、構想の内容に多くの疑問点をお持ちであることがよく分かった。今後、より多くの区民の方やこどもに児童館を分かりやすく伝える工夫が必要だと感じた。